

廃プラ・容器・古紙・事業系

# 「新システムを全国へ」

## 混合飲料容器選別も機械化 ベストトレーディングをグループ化

### ガラスリソーシング

本紙1面のおり、ガラスリソーシング(本社・千葉県銚子市、伊藤憲一会長、☎0479・24・6651)は、同社の「成田



混合飲料容器の選別を全自動化

工場(千葉県成田市)に廃PETボトルの異物除去と洗浄、圧縮を一貫で行う新施設「C棟」を竣工した。それ

とともに、PETボトルとスチール缶、アルミ缶、ガラスびんなどの混合飲料容器を選別する「B棟」について、従来の機械選別後の手選別工程を光学選別機に転換した。伊藤会長は、「機械化を進めることで、事業系の混合飲料容器のリサイクルを新たな段階に引き上げる。システムの新たな標準として全国に発信したい」と述べている。

B棟は、1時間当たり20ト(24時間稼働)の処理能力を持つ国内最大級の混合飲料容器選別施設になる。

混合飲料容器を袋詰めしたまま2系列のラインに投入し、破袋・除袋、スクリーンで混入ごみ除去を行った後、磁選機でスチール

缶を回収し、風力選別を組み合わせる。分別機で重量物(ガラスびん、飲み残しがある容器)と軽量物(アルミ缶、PETボトル)、残った混入ごみに分ける。アルミ缶はさらにセパレーターにかける。従来、アルミ缶を選別した後のPETボトル選別については人手で行っていたが、今回新たに光学選別機(2基)を導入して全工程を機械化した。B棟で選別したPETボトルは新設したC棟に空送る。これによって、混合飲料容器の選別からPETボトル洗浄・圧縮までを全て自動化した。選別したガラスびんを再資源化する本社工場(千葉県銚子市)では、防災の取り組みについて、3月19日に千葉県地域防災力向上知事表彰を受けた。

さらに、従来から付き合いがある混合飲料容器選別のベストトレーディング(神奈川県厚木市)について、4月1日付で全株式を取得し、グループ会社とした。